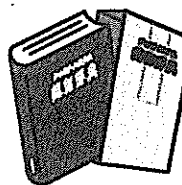


万葉図書・情報室だより48号

類聚名義抄



『類聚名義抄』(『名義抄』と略す)は、十一〜十二世紀ころの成立と推定される部首分類の漢和辞書。

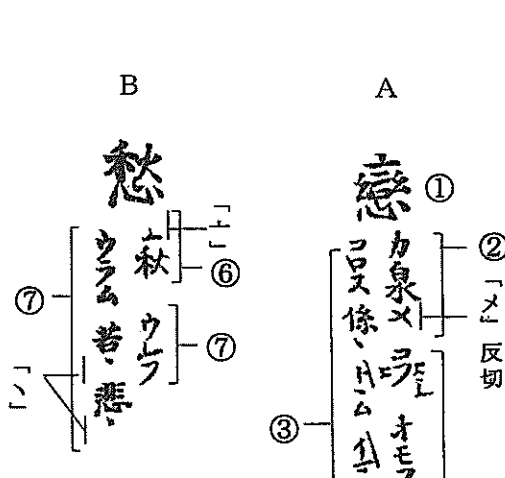
『類聚名義抄』の書名は、前回ご紹介した『和名類聚抄』の「類聚」と、空海撰の『篆隸万象名義』の「名義」に由来すると考えられています。『万葉集』の注釈や研究においてもよく参照されています。

伝本は原撰本(図書寮本『類聚名義抄』法部一帖のみ)と編撰本(蓮成院本・西念寺本・高山寺本・観智院本)があります。

編撰本は仏・法・僧の三部で、それぞれが上・中・下に分かれていますが、加えて、仏下末と篇目の計十一冊で構成されており、観智院本は現存する唯一の完本です。

実際に観智院本を使ってA(恋) B(愁)を引いてみます。

『名義抄』には、現在では使われない記号のような②「メ」や④「禾」や⑥「上」などが用いられています。これらは、略字や省字と呼ばれている文字です。(→後出)他に「俗」の省字として「谷」と書かれる場合があり、⑦の漢字の下の「、」は「也」を表しています。



A(恋) B(愁) ①は見出しの字です。②は「恋」の字の音を示している部分です。ここでは反切という方法がとられています。反切とは、漢字二文字を使って字音を示す方法です。

「恋」の反切を例にとると、「カ(riki)」の「r」・「泉(sen)」の「en」を組み合わせて「ren」と発音することを示しています。

「メ」は「反」の省字です。

③は「恋」の訓と字義で、コフ「右傍書(コ)ヒシ・左傍書(コ)ヒ」

・オモフ・ヤハラカニ・ナイカシ

口・コロス・係也・ト、ム・イマシ

ム・オソル・病也・慕也とあります。

④「禾」は「和」の省字で、和訓と

して「恋」を「レン」とよむことが示されています。

⑤は異なる字形(異体字)が示されています。

⑥の「上」は「音」の省字です。

⑦は「愁」の訓と字義で、ウレフ・ウラム・苦也・悲也とあります。

『名義抄』は多数の和訓を収録して

いて、平安時代の和訓の集大成といわれています。

当館図書・情報室には、天理図書館善本叢書『類聚名義抄観智院本』を所蔵しています。

○新着図書案内○

☆三宝類字集 高山寺本 (新天理図書館善本叢書)

☆古代飛鳥の都市構造 (相原嘉之/吉川弘文館)

☆蘇我氏と飛鳥 (遠山美都男/吉川弘文館)

☆柿本人麻呂 (多田一臣/吉川弘文館)

☆古文書の研究 (湯山賢二/青史出版)

☆古代和歌表現の機構と展開 (津田大樹/新典社)

利用案内

開館時間 午前10時〜午後5時半

休館日 1月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始・展示替日

図書室のご利用は無料です。閲覧のご利用になります。

コピーサービス 白 黒一枚 10円 カラー一枚 50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室 奈良県高市郡明日香村飛鳥一〇 0744-54-1850(代)

